

日本教育史研究部門

「1950年代教育史」研究部会（第52回）

日時：2021年2月26日（金）13:00～15:00

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員

吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）米田研究員：紀要「刊行に際して」、「付論」、「序章第1節」

◆「刊行に際して」原稿 前回の60集の文章に一部加えたもの

◆「付論」に「6 日政連にとっての1950年代」を追加

60年代以降の展開をみて50年代とそれ以降では日政連の性格が違うことを示す
地方の教職員組合史での評価

◆「序章 第1節 1950年代という時期の区分と性格」（途中まで）の原稿検討

先行研究については広範囲に列挙する予定

序章の中の1950年代における事象の分類（①～⑤）について、それぞれの論文がどこに
入るかを記述するか→いくつもの分類にまたがるものもある為、難しい？

分類（①～⑤）の事象の中に生活史や就職についても触れるべきでは

（2）須田研究員：紀要「第2章 第5節」原稿検討

◆第2章第5節、加筆修正部分の原稿検討

（タイトルを「第5節 静岡大学における教育研究所の系譜」に変更）

- 1 静岡大学教育研究所から「文化と教育研究会」への歩み
 - 2 『文化と教育』執筆者層と紙面の特徴
 - 3 『文化と教育』を中心にみた三誌の比較
 - 4 『教師の広場』への「発展的解消」
 - 5 「文化と教育研究会」から「総合研究所」へ
- ・文部省から解散の通達があったことについて
何が問題であったか →もう少し精査する

・次回研究会 3月26日（金）13:00～ 鳥居研究員・西山研究員の発表

次々回 4月26日（金）13:00～ 大島研究員・須田研究員予定